

## 1. 定時社員総会

平成 27 年 9 月 18 日(金)新潟 朱鷺メッセにて開催。主な議案は

平成 26 年度 公益社団法人日本動物学会事業報告

平成 26 年度 社団法人日本動物学会決算報告（貸借対照表、損益計算書、及び財産目録）

## 2. 学術集会の開催

平成 27 年 9 月 17 日から 19 日まで、第 86 回日本動物学会大会を新潟 朱鷺メッセで開催。大会準備委員会を組織して、講演、シンポジウム、高校生発表等を行った。口頭発表口頭発表 509 演題、高校生ポスター34 演題、シンポジウム 73 演題（本部企画を含め 14 企画）、関連集会 17 演題（3 企画）、公開講演会 5 演題。大会参加者 831 名（公益 1）

## 3. 学術誌の刊行

Zoological Science (ZS)の刊行（第 32 巻 4 号～第 33 巻 3 号）。800 頁。（公益 1）

ZS の編集は、編集委員会委員（海外委員 2 名を含む）が行った。編集委員会は年 1 回開催（公益 1）

Open Access ジャーナル Zoological Letters を 2015 年 1 月 13 日に発刊した。OA ジャーナルのため、巻号はない。平成 27 年度の出版論文数は 30 論文（公益 1）

## 4. Web による広報活動の促進とニュースの発行

HP を利用して、大学等研究機関による職員募集、科学者によるセミナー、シンポジウムの開催通知、動物学研究トピックスなどを随時掲載した。ニュースを月 1 回発行。

## 5. データベース構築(ZooDiversity Web)

新たに ZS に出版された論文 120 編が対象とする動物種を調査した。

併せて ZS 32 巻収録論文について、以下を行った。（公益 1）

学名表記を欠く場合について、適切な学名を補完

タイトルについて、不適切な学名表記を修正

研究対象について、学名に対応する英名の調査

研究対象について、所属する上位分類群名の調査

## 6. Virtual Issues の発行

今期は、新たな Virtual issue 刊行は行わなかった。

## 7. 研究の表彰

### ・日本動物学会賞

会員を対象とし、動物学研究に新たな知見をもたらした研究に授与。本年は 2 件を、学会賞等選考委員会による審査を経て、理事会の審議により決定した。

#### 1. 平成 27 年度日本動物学会賞

1.西川輝昭（にしかわ てるあき）東邦大学元教授・名古屋大学名誉教授  
受賞研究「海産無脊椎動物の系統分類学」

2.山下正兼（やました まさかね）北海道大学教授

受賞研究「卵成熟を最終的に誘起する仕組みの解明：卵成熟促進因子(MPF)の形成/活性化機構における普遍性と多様性」

・日本動物学会奨励賞

会員を対象とし、今後の動物学研究を推進することが期待される若手研究者に授与。本年は2件を、学会賞等選考委員会による審査を経て、理事会の審議により決定した。

1. 佐藤 伸（さとう あきら）岡山大学 異分野融合先端研究コア・准教授  
受賞研究「四肢再生における神経因子の研究」

2.中野裕明（なかの ひろあき）筑波大学下田臨海実験センター・准教授  
受賞研究「非モデル海産動物の生活史に関する進化発生的研究」

・Zoological Science Award

平成26年に出版されたZS掲載論文より、各分野において、優秀でインパクトのある論文の著者に授与。ZS編集委員会による審査を経て、理事会の審議により決定した。(公益1) 2015年4月9日にZoological ScienceのAssociate Editors 14名、Advisory Board Members 33名に候補論文の推薦(2014年に発表された論文のうち3編程度まで、推薦〆切5月22日)をe-mailで依頼した。5月22日までにEditor-in-Chief 1名、Associate Editors 14名、Advisory Board Members 3名より計49件、重複を除き30編の論文が推薦された。この推薦論文リストに基づきEditor-in-Chief 1名とAssociate Editors 14名で、多数の推薦を受けたもの、科学的内容の妥当性と重要性、動物学への顕著な貢献などに基づいて審査をおこない、以下の5論文を受賞論文として理事会に推薦、理事会での審議の結果、5論文を受賞論文とした。

【受賞論文】

Rhinoceros Beetles Suffer Male-Biased Predation by Mammalian and Avian Predators

Wataru Kojima, Shinji Sugiura, Hiroshi Makihara, Yukio Ishikawa and Takuma Takanashi

Zoological Science 31(3): 109–115

Sea Lily Muscle Lacks a Troponin-Regulatory System, While it Contains Paramyosin.

Takashi Obinata, Shonan Amemiya, Ryosuke Takai, Muneyoshi Ichikawa, Yoko Y. Toyoshima and Naruki Sato.

Zoological Science 31(3): 122–128

Segment Regeneration in the Vestimentiferan Tubeworm, *Lamellibrachia satsuma*

Norio Miyamoto, Ayuta Shinozaki and Yoshihiro Fujiwara

Zoological Science 31(8): 535–541

“Double-Trick” Visual and Chemical Mimicry by the Juvenile Orchid Mantis *Hymenopus coronatus* used in Predation of the Oriental Honeybee *Apis cerana*

Takafumi Mizuno, Susumu Yamaguchi, Ichiro Yamamoto, Ryohei Yamaoka and Toshiharu Akino  
Zoological Science 31(12): 795–801

Unraveling a 70-Year-Old Taxonomic Puzzle: Redefining the Genus Ikedosoma (Annelida: Echiura)  
on the Basis of Morphological and Molecular Analyses

Masaatsu Tanaka, Takeshi Kon and Teruaki Nishikawa

Zoological Science 31(12): 849–861

・日本動物学会女性研究者奨励 OM 賞

安定した身分で研究を続けることが困難であるが、強い意志と高い志を持って研究に意欲的に取り組もうとする女性研究者に対して、OM 賞選考委員会による審査を経て、理事会の審議により決定した。(公益 1)

1. 稲木美紀子 (いなき みきこ) 大阪大学 理学系研究科 生物科学専攻 非常勤特任研究員  
研究テーマ「細胞キラリティが左右非相称な内臓捻転を誘導する機構の解明」

2. 植木紀子 (うえき のりこ) 中央大学 理工学部 生命科学科 共同研究員 / 東京工業大学 資源化学研究所 附属資源循環研究施設 科研費教育研究支援員  
研究テーマ「ボルボックス目の鞭毛運動から探る環境応答行動のしくみと変遷」

・成茂動物科学賞基金奨励賞

動物学の全分野でユニークな研究を展開する会員を振興賞の候補者とする。学会賞等選考委員会の審議により、推薦があり、推薦通り、理事会の審議により以下のように決定した。

岡田 龍一 (おかだ りゅういち) 兵庫県立大学環境人間学部・研究員

「ミツバチの社会性行動に関する生物学および数理学的研究：行動誤差の進化的意義の発見」

・若手研究者国際会議出席補助金 (江上基金・川口基金)

4 月から 9 月 (江上基金対象) および 10 月から 3 月 (川口基金対象) に開催される海外国際会議に出席する若手研究者を対象に、渡航費を補助する。学会賞等選考委員会による審査を経て、理事会の審議により決定した。

川口基金

1. 佐藤恵太 (京都大学大学院)

江上基金

1. 利嶋 奈緒子 (九州大学システム生命科学府・博士研究員)

2. 山崎 博史 (琉球大学理学部・ポスドク研究員)

・動物学教育賞

活発な啓蒙活動等により動物学の社会への普及に著しく貢献した個人または団体とし、本学会の会員・非会員を問わない。国籍も問わない。理事で構成する委員会で審議し、理事会の審議により以下のように決定した。(公益1)

経塚 啓一郎 (東北大学浅虫海洋生物学教育研究センター・准教授)

## 8. 動物学の普及活動、生物科学学会連合による生物学の連携、協調活動

国際生物学賞、国際生物学オリンピックの推進を図り、支援を行った。また、生物科学学会連合活動を生物系学会と連携して推進した。(公益1)

## 9. 委員会の活動

### (広報委員会)

1. 毎月のはじめに、ニュースレターをダイレクトメール送信でお知らせした。
2. 国際動物学会議 WEB サイトに関して  
担当(植木委員)を決め、FaceBookなどを開設し、また各担当理事の要望をサイトを管理する業者に知らせ、サイトの改修を行った。
3. 学会賞等、財団申請、若手国際会議出席に関する申請書受付口を学会HPに作成
4. 選挙公示を学会 WEB サイトにアップした

### (図書委員会)

1. シュプリンガー・ジャパンから刊行予定のシリーズ「Animal Diversity and Generality」のカバーデザインを検討している。
2. 丸善から出版予定の「動物学の百科事典」の、章立てと章ごとの中項目の選定を完了しつつある。
3. Springer シリーズ第1巻(種多様性)査読が済み、内容について、理事に確認のメールを送信した。
4. 丸善百科事典編集幹事：2016.06.11 丸善(東京)にて今後の進め方相談

### (男女共同参画連絡会)

- 1) 大規模アンケート「第三回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査(2012年11月実施)」の動物学会会員データの解析が終了し、「動物学会会員データ解析報告書」(2017年9月7日)を以下の動物学会ホームページにて公開した。  
[http://www.zoology.or.jp/news/img/f\\_users/r\\_342911img20150907092458.pdf](http://www.zoology.or.jp/news/img/f_users/r_342911img20150907092458.pdf)
- 2) 女子中高生夏の学校2015(2015年8月6-8日、国立女性教育会館)の開催にグッズ(絵葉書、マグネット)提供で協力をした。
- 3) 9月18日11:45-12:45 第15回男女共同参画懇談会ランチョン企画「多様なワークライフバランスの実現から研究時間の獲得へ」(9月18日、11:45-12:45、第86回新潟大会関連集会)を開催した。グループディスカッションは「キャリアパス」、「育児・子育て」、「共働き・単身赴任」、「介護」のテーマで活発な意見交換がなされた。開催にあたり男女共同参画指定の寄附を以下の2件および複数の個人から受けた。

株式会社チヨダサイエンス東京都千代田区広告3万円

株式会社池田理化東京都千代田区1万円

4) 第 13 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムが 2015 年 10 月 17 日(土)千葉大学(西千葉キャンパス)で開催され、正会員である動物学会から男女共同参画委員が参加し、ポスター発表および資料集での活動報告を行った。

(将来計画委員会)

キャリアパスに対する今後の対応について継続審議を行った。

#### (教育委員会)

##### 北海道支部

事業名：日本動物学会北海道支部第 60 回大会 高校生特別発表、体験実習

実施日：平成 27 年 8 月 22 日(土)

会場：北海道大学理学部 5 号館

演題数：ポスター 4 題

##### 東北支部

事業名：日本動物学会平成 27 年度東北支部大会 高校生研究発表

実施日：平成 27 年 8 月 8 日(土)

会場：東北大学農学部講義棟

演題数：口演 12 題

事業名：親子で楽しむ動物学 15 サカナの研究のお話と観察観

実施日：平成 27 年 8 月 9 日(日)

会場：東北大学農学部講義棟

参加者：一般 20 名、学会会員、学生 20 名

##### 関東支部

事業名：日本動物学会第 68 回 関東支部大会 中・高校生研究発表

実施日：平成 28 年 3 月 12 日(土)

会場：神奈川大学横浜キャンパス 3 号館

演題数：ポスター 21 題

##### 中部支部

事業名：平成 27 年度日本動物学会中部支部大会 高校生研究発表

実施日：平成 27 年 11 月 28 日(土)

会場：三重大学総合研究棟Ⅱ メディアホール

演題数：口演 4 題、ポスター 2 題

##### 中国・四国支部

事業名：山口大学理学部サイエンスワールド 2015 高校生研究発表(後援)

実施日：平成 27 年 10 月 18 日(日)

会場：山口大学吉田キャンパス

演題数：ポスター 18 題

事業名：2015 年度中国四国地区生物系三学会合同大会鳥取大会 高校生研究発表

実施日：平成 28 年 5 月 14 日（土）

会場：米子コンベンションセンタービッグシップ

演題数：ポスター 46 題（うち動物関係 16 題）

## 九州支部

事業名：2015 年度九州地区生物系三学会合同大会鹿児島大会 高校生研究発表

実施日：平成 28 年 5 月 28 日（土）

会場：鹿児島大学群元キャンパス理学部 2 号館

演題数：ポスター 8 題

### （国際交流委員会）

1. 基調講演者、シンポジウム等の招聘者や枠等について、会長、副課長と会 WEB 会議を開催した。

2. シンポジウムオーガナイザーに INVITATION LETTER を用意し、送信を依頼。その内容を事務局へ送信するよう依頼をした。

3. シンポジウムオーガナイザーとタイトル、講演者等についてやりとりを行った。

平成 27-28 年度動物学会国際交流委員：

青沼仁志（北大）、横山仁（東北）、安東宏徳（新潟大）、稲葉一男（筑波大、委員長）、徳元俊伸（静岡大）、梅園良彦（兵庫県立大）、渡邊英博（福岡大）

### （IT委員会）

IT 委員会名簿

阿部秀樹（名大、委員長）、吉田学（東大）、成瀬清（基生研）、吉井大志（岡山大）若林憲一（東京工業大）蟻川謙太郎（担当理事）

平成 28 年 4 月 19 日 午前 10 時～10 時 27 分 web 会議を開催し、国際会議参加登録、及び演題登録システムの最終チェック等を委員で行った。参加者 阿部秀樹、吉田学、成瀬清、吉井大志、若林憲一、永井裕子、広瀬裕一

5 月の登録開始をめざし、ほぼ毎日、委員がシステムのチェック、ダミーデータによるシステム動作の確認を行った。

9. 動物学の普及活動、生物科学学会連合による生物学の連携、協調活動

国際生物学賞、国際生物学オリンピックの推進を図り、支援を行う。そのため、JSPS、国際生物学オリンピック日本委員会に各 10 万円の寄附を行った。また、生物科学学会連合活動を生物系学会と連携して推進した。

## 10. 支部による活動

・北海道支部

1. 日本動物学会北海道支部第 562 回支部講演会の開催 (9 月 26 日): 木矢剛智博士 (金沢大学・理工研究域・自然システム学系・生物学コース准教授) 演題: 昆虫の生得的行動の神経基盤: 活動依存的な神経回路可視化法の開発によるアプローチ。出席者 25 名。
2. 日本動物学会北海道支部第 563 回支部講演会 (12 月 21 日) 鈴木賢一 博士 (広島大学大学院・理学研究科・ゲノム編集研究拠点 特任准教授) 演題: ゲノム編集技術を用いた両生類のポストゲノム研究。出席者 15 名。
3. 日本動物学会北海道支部他後援 第 19 回科学探検ひろば 2016 の開催 (1 月 9 日) (於) 旭川市科学館サイバル (主催: サイエンスボランティア旭川・旭川教育委員会)
4. 2018 年度日本動物学会札幌大会に関する検討会の実施。11 月 26 日と 1 月 8 日に 5 名の委員で会合を持ち、札幌大会の概要を検討した。また、2 月 4 日に大会開催の候補会場の担当者と交渉し、その結果を踏まえて作成された予算案とプログラム案についてメール会議で議論し、平成 28 年度支部役員会 (8 月 27 日開催予定@旭川) で諮る案を確定した。
5. 日本動物学会北海道支部第 564 回支部講演会の開催 (3 月 22 日): 矢崎-杉山陽子博士 (OIST 沖縄科学技術大学院大学) 演題: Early auditory experience shapes neuronal circuits to form auditory memories in zebra finch song learning.
6. 2016 年度北海道支部大会を 8 月 27 日に旭川医科大学で開催することを決定し、5 月 13 日付けで第一回案内を支部会員に送付した。
7. 日本動物学会北海道支部第 565 回支部講演会の開催 (6 月 3 日): 永山晋博士 (テキサス大学医学部ヒューストン校) 演題: マウス嗅球糸球体モジュールの形態と機能。出席者 25 名。
8. 日本動物学会北海道支部第 566 回支部講演会の開催 (7 月 8 日): 三浦恭子博士 (北海道大学・遺伝子病制御研究所) 演題: 長寿・がん化耐性動物 ハダカデバネズミ由来 iPS 細胞の腫瘍化耐性機構。出席者 35 名。

#### ・東北支部

##### ①平成 27 年度日本動物学会東北支部大会

平成 27 年 8 月 8 日 (土) 13:00~17:00 (一般口演、高校生発表)

平成 27 年 8 月 9 日 (日) 9:00~12:00 (総会、一般口演)

東北大学農学部講義棟

一般口頭発表: 24 件

高校生口頭発表: 12 件

参加者: 約 90 名 (高校生を含む)

##### ②平成 27 年度公益社団法人日本動物学会東北支部役員会

平成 27 年 8 月 8 日 (土) 11:00~13:00

東北大学農学部・水産生物飼育実験棟 2 階会議室

出席者: 田村支部長、渡辺代表委員、黒谷委員 (山形)、鈴木委員 (宮城)、松岡委員 (福島)、西野会計幹事、越智広報幹事、小金澤庶務幹事

<議題>

- 1) 平成 26 年度決算案・平成 27 年度予算案 (会計)
- 2) 次期支部大会開催地について (庶務)
- 3) 支部大会開催について (庶務)

- 4) 支部役員（秋田地区・岩手地区支部委員）の委嘱について
- 5) 「親子で楽しむ動物学」開催のための指針（庶務・会計）
- 6) フォトコンテスト開催について（庶務）
- 7) その他

③平成 27 年度公益社団法人日本動物学会東北支部総会

平成 27 年 8 月 9 日（日）11:30～12:00

東北大学農学部講義棟

<報告事項>

- 1) 理事会報告
- 2) 庶務報告
- 3) 会計報告
- 4) フォトコンテスト審査結果
- 5) その他

<審議事項>

- 1) 次期支部大会開催地について
- 2) その他

④一般向け講演会「親子で楽しむ動物学 15 サカナの研究のお話と観察」（添付資料参考）

平成 27 年 8 月 9 日（日） 13:00～15:00

東北大学農学部講義棟

講演会「ヒラメでおこる子供から大人への体の変化」

講師：東北大学農学部 鈴木徹教授

講演会「メダカをモデルに使った生物研究」

講師：東北大学農学部 横井勇人助教

体験教室：魚の観察。卵・稚魚・餌のプランクトンの顕微鏡観察。

一般参加者：約 20 名

学会関係者・学生：約 20 名

・関東支部

(1) 平成 27 年度 関東支部会主催公開講演会

「動物の行動を科学する」

【日 時】 平成 27 年 8 月 1 日（土） 13 時～16 時 00 分

(サイエンスカフェ 16 時 15 分～17 時 00 分)

【会 場】 東京大学後本郷キャンパス 2 号館 4 階大講堂（東京都文京区本郷 7-3-1）

【参加者】 約 190 名

プログラム

バイオリングで調べるマンボウやウミガメの行動生態

佐藤 克文（東京大学）

メダカの三角関係を生み出す分子基盤

竹内 秀明（岡山大学）

ハエトリグモの光を感じるしくみ ～ピンボケで距離を測る



寺北 明久 (大阪市立大学)

(2) 第 86 回日本動物学会 (新潟大会 於 朱鷺メッセ) の開催支援

(3) 第 68 回関東支部大会および関東支部総会

【日 時】 2016 年 3 月 12 日 (土)

【会 場】 神奈川大学横浜キャンパス 3 号館  
(神奈川県横浜市神奈川区六角橋 3-27-1 )

【大会長】 小谷 享 会員 (神奈川大学)

【演題数】 一般演題 (ポスター) : 66 演題  
中・高校生ポスター : 21 演題

【参加者】 313 名

プログラム :

9:30 大会受付開始、ポスター掲示

10:00-12:00 公開シンポジウム(3-B104 号室)

「昆虫生理学ー今と昔ー」

1. 桜井 勝 (サイエンスヒルズこまつ ひとつものづくり科学館)
2. 藤原春彦 (東大・院・新領域創成科学)
3. 吉野正巳 (東京学芸大・教育学部)
4. 泉 進 (神奈川大・理学部)

12:15-13:00 総会(同上)

13:00-13:30 昼休み

13:30-15:30 ポスター発表(3-305 号室)

15:30-15:45 高校生ベストポスター賞表彰(3-305 号室)

16:00- 懇親会(19 号館 B1 階・LUX ラックス)

・中部支部

1.平成 27 年度日本動物学会中部支部大会を、平成 27 年 11 月 28、29 日 (土、日) に、1 日目の研究発表、高校生発表 を三重大学総合研究棟Ⅱ メディアホール (津市栗真町屋町 1577) にて、2 日目の公開講演会 を三重県総合博物館 研修室 (津市一身田上津部田 3060) にて開催した。

参加者数 : 1 日目 93 名、 2 日目 51 名

発表数 : 口頭発表 11 件、 ポスター発表 15 件

高校生の発表 口頭発表 4 件、 ポスター発表 2 件

・近畿支部

1) 平成 27 年 12 月 5 日 (土) 甲南大学岡本キャンパスにおいて、支部委員会および公開講演会を開催した。

講演会タイトル : 環境の変化と生き物のしなやかさ ~植物と動物の巧みな生存戦略~

講演者 : 西村 いくこ (京都大学)

「しなやかに生きる植物の不思議」

久原 篤 (甲南大学)

「線虫から探る温度応答と記憶のエッセンス」

支部委員会において 2014 年度会計報告および 2015 年度会計中間報告を行い、今後の活動について議論した。

2) 平成 28 年 5 月 14 日 大阪大学豊中キャンパスにおいて、近畿支部委員会、総会、および近畿支部春季研究発表会を開催した。

日本動物学会近畿支部春季研究発表会 演題数 6

招待講演 小林 快次 (北海道大学)

「恐竜の羽化」

支部委員会において 2015 年度会計中間報告を行うとともに 2016 年度事業計画案を審議し、今後の活動について議論した。

#### ・中国四国支部

1. 平成 27 年 10 月 18 日 (日) に山口大学吉田キャンパスにて実施された山口大学理学部サイエンスワールド 2015 を後援した。出展企画数 24 件、高校生ポスター発表 8 校 18 件、参加者は 1136 名。
2. 平成 27 年 12 月 12 日 (土) に高知大学理学部にて、第 108 回土佐生物学会 (高知県例会) を開催した。演題数は 4 件、参加者は約 50 名。
3. 平成 27 年 12 月 19 日 (土) 午後、愛媛大学理学部にて愛媛県例会を開催した。演題数は 5 件、参加者は 35 名。
4. 平成 28 年 3 月 2 日 (水) 午後、広島大学大学院理学研究科にて広島県例会を開催した。演題数は 22 件、参加者は約 40 名。
5. 平成 28 年 5 月 14 日 (土) ~15 日 (日) に、米子市米子コンベンションセンタービッグシップにて、中国四国支部大会を開催した。演題数 32 であった。このほかに、高校生ポスター発表 40 件と公開講演会「中国地方の希少動植物とその保全」を植物学会および生態学会中国四国支部と合同で開催した。動物学会員の参加者は約 50 名であった。
6. 平成 28 年 5 月 14 日 (土) に、米子市米子コンベンションセンタービッグシップにて、中国四国支部役員会を開催し、支部の事業計画、予算等について審議した。
7. 平成 28 年 5 月 15 日 (日) に米子市米子コンベンションセンタービッグシップにて、中国四国支部総会を開催し、支部の事業計画、予算等について審議した。

#### ・九州支部

3 月 30 日 九州支部常任委員会開催

活動報告・活動予定の審議

5 月 16 日 九州支部常任委員会開催

5 月の支部委員会・支部総会に向けて審議・準備

5 月 28 日~5 月 29 日 三学会 (動物・植物・生態) 九州支部合同大会開催: 鹿児島大学にて行われ、ポスター発表 (高校生も含む)、特別講演、

一般発表 (口演) を行う。83 名 (+  $\alpha$ 、当日参加) 参加

5月28日 九州支部委員会、九州支部総会開催

6月17日 支部選挙 開票 支持代表委員と支部委員の選定、

#### 1.1. 国際動物学会議開催

2016年11月に日本で開催される国際動物学会議に関して、委員会を組織して参加登録システム、演題登録システムを立ち上げた。

-----  
第22回 国際動物学会議 および 第87回 日本動物学会年会 合同大会

日時：2016年11月15日-19日

会場：沖縄科学技術大学院大学（恩納村）、沖縄コンベンションセンター（宜野湾市）

主催：国際動物学会（ISZS）、公益社団法人日本動物学会

-----  
11/15-16は沖縄科学技術大学院で国際動物会議を開催

11/17-19に沖縄コンベンションセンターで国内学会と国際動物会議との合同大会

11/19の午後に動物広場と公開講演会(那覇市)

-国際動物会議の大会委員長--佐藤矩行会員

国内学会の大会委員長--広瀬裕一会員

合同大会委員長--武田洋幸会員